



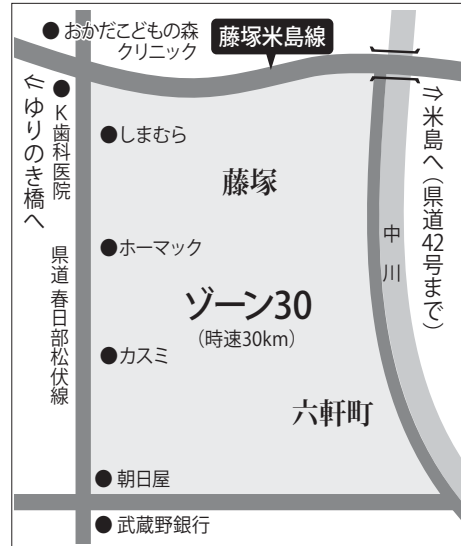
今号の内容

6月議会・一般質問

- ①藤塚地区の交通安全問題に関して
- ②新電力に切り替え、経費削減を

その他

- 太田市ヘメガソーラー視察/いじめ条例案/病児保育/子育て世代の流出問題/市庁舎移転いまむかし/市議会ヤジ問題



藤塚米島線
ゾーン30 (時速30km)
六軒町

藤塚米島線の速度規制・大型車両の交通規制については、これまで、地元自治会が春日部警察署に対して要望を行うとともに、私や鈴木一利議員など、地元市議としても早期に実現するよう、働きかけを行ってきました。今回、40キロ規制がほぼ決まったことは、市民の切実な声、つまり「市民パワー」が市や警察を動かしたという点で、非常に意義のあることだと考えています。

6月議会・一般質問

藤塚米島線、40キロ規制へ

質問1

藤塚地区の交通安全問題に関して

私の地元でもあります藤塚地区を通る県道・藤塚米島線について、以前より周辺住民の方々から自動車の速度規制（現在の60キロから40キロへ）、また大型車両の通行規制を求める強い要望が市を通じて警察に出されていますが、進展はありますか。

答弁（建設部長、以下同）この問題にしましては県の公安委員会と決定しますが、現在、同線全線に40

規制をかける方向で動いております。先般、春日部警察から関係する3自治会（新川島野口・永沼）の方々にご説明させていただきました。大型車両の通行規制のほうはどうですか。

答弁 現在のところ、大型車両の交通割合が低いことから、現時点では難しいとのことですが、

住宅街を通る道路ですので、ぜひ大型車の規制についても引き続き警察に要請していくことを要望します。

次に、今年度この藤塚米島線と隣接する場所に、「ゾーン30」というエリアが整備される予定ですが、これがどういうものかご説明ください。

答弁（市民生活部長、以下同）ゾーン30の地域内では、歩行者等の安全を確保するため、

自動車の最高速度を30キロに設定するとともに、路側帯の新設や拡幅などの道路整備を行います。

この整備予定エリアは、地元の豊野小・藤塚小・牛島小の3つの小学校の通学路を含んでいます。子どもたちの登下校時の安全にもつながるものと、理解してよろしいですか。

答弁 交差点での、「止まれ」の強調標識や交差点標の標示などの整備を予定しておりますので、通学途中における児童生徒の安全も確保されるものと考えております。

市議会ヤジ問題で考えたこと

——編集後記に代えて——

今議会会期中、市議会でもくだらないヤジがある、と私がフェイスブック*に書き込んだところ、予想を超える多くの皆さまからの反響があり、また、議会でもちよつとした問題になりました。この問題を通して、市民の皆さまに私の考え方や思いを改めてお伝えしたいと思います。

■ヤジ問題の経緯

6月10日に行われたある議員の一般質問の最中に、一部の議員からヤジが飛びました。私は以前から市議会でのヤジが気になっていましたので、だれかを攻撃するのが目的の答弁も含めて「非常に不快」と、その日のフェイスブックに書き込みました。さっそく、議会ではこの行為を批判的にとらえる反応がありましたので、私は特定のヤジを攻撃するのが目的の

若者の声

国会でのヤジ信じられない
小学生 王子いづる 11
（東京都世田谷区）
先日、テレビで国会審議の様子を見ていたら、質問している人の後ろで大きな声かしていたので何かと思ったらヤジを飛ばしてました。ずいぶん失礼な人たちだと思いました。そして、新聞記事によると、安倍晋三首相までも野党の女性議員にヤジを飛ばしたらしい。ヤジを飛ばすことは話をしている人にとっても失礼なことだと思います。

6月17日付
東京新聞
朝刊より

はなく、議会を良くしたいとの思いで書いているので、「今後何らかのスタンスは変わりません」と、改めてフェイスブックに書き込みました。

■市民の方々からの反響
この件に関しては、非常に多くの方々からコメントが寄せられました。そして、そのほとんどが、議会での反応とは逆に、私の行動に共鳴してくださる意見や励ましのお言葉でした。

今回のことで改めて感じたのは、市民の皆さんは決して市政に関心がないわけではなく、関心を持つきっかけや、議論するための情報が不足しているのであり、行政側や個々の議員から、積極的に情報公開、また問題提起をしていくことが重要だということだ。

■私の真意
私は議会でのヤジをすべて不要だと考えているわけではなく、国民を苦しめ続けている技術

■判断の基準は、子どもたち

私はあらゆる社会問題を考える際、『子どもたちに、明確に説明できるか』ということを、判断の基準にしています。なぜなら、子どもたちは、我々大人がどんなに知識を振りかざして説明しても、その純粋な感覚で、「やっぱり、おかしい」、「納得できない」と感じることで存在から消えていくからです。

11歳の小学生が新聞に投稿した記事を掲載させていただきました。子どもに話してはいけないというのを、大人はするべきではないと思う。はたして、我々大人は、そして議員は、この言葉を直視できるでしょうか。



▼1969年生まれ、46歳。
▼杉戸高校、大東文化大学経済学部卒業（国際政治学専攻）
▼保育士の妻、中学1年生の息子、5歳の娘と春日部市藤塚に暮らす
▼NPO法人春日部FM代表。同法人は子どもから大人までが集う週末教室「かすかべフェルマータクラブ」を主宰
▼埼玉新聞社、JICA（独立行政法人国際協力機構）等を経て、産業界カウンセラーとして生活保護受給者の自立支援に従事した後、平成26年4月の春日部市議会議員選挙に初出馬し、当選を果たす。
▼高校まで硬式野球部。走ることに文章を書くことが得意。
▼血液型AB 左利き。
▼信条は、自然エネルギーを推進すること、子どもたちに安心・安全な社会を残すこと。